

刻む会

たより

No. 20

1999. 10. 26

長生炭鉱の“水非常”を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一―一九

☎〇八三六(二一)八〇〇三

99年前半を振り返って

山内弘恵

早いもので、もう例年の追悼式の準備にとりかかる季節となりました。

昨年は、12月に新井英一チャリティコンサートを開催し、大成功を収めました。その成果もあって、市民のコンセンサスも少しづつ深まってきているような気がします。

この夏行われた恒例のフィールドワークは台風の最中(?)であったにもかかわらず、初めてこられる方も含め、多数の

参加がありました。(次

ページに新聞記事掲載)

追悼碑建立につきましては、土地の選定など難しい面が多く、遅々として進んでいない感がありますが、一方で、宇部市との協力体制が少しづつ、構築されつつあります。

例えば、飯塚の追悼碑建立の動きにも宇部市は積極的な情報収集をされていると聞いております。現地視察も検討されている状況です。また、3月の市議会では初めて長生炭鉱の問題が答弁されました。

このような中、私たち

にとってやはり何よりも

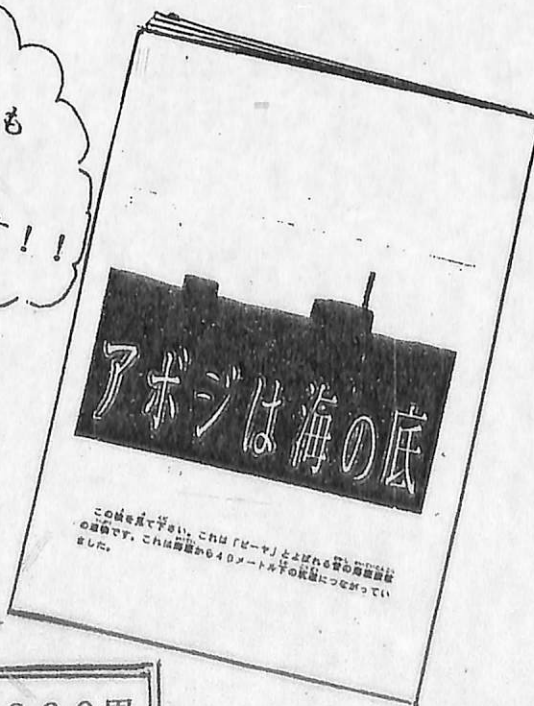
重要なことは、宇部市民、山口県民全体に私たちの運動に対する支持を得ることだと思えます。一人でも多くの方にこの事実を語り、協力して頂くことです。

また、58年目のあの日がやってきます。一日でも早く、犠牲者たちが心安らかに眠れる様に、頑張っていきましょう。



紙芝居の貸出も

行っています!!



1冊 300円

パンフレット

「アボジは海の底」

事実をもとに作成した物語です。紙芝居をそのままパンフレットにしました。是非、一冊、ご購入下さい。

99年 夏のフィールドワーク

時報

1999年(平成11年)7月28日 水曜日 (日刊) 神奈川新聞

99.7.28 毎日

長生炭鉱の水没事故

子どもら「悲劇」学ぶ

戦時中、宇部市西岐波の旧長生炭鉱であった水没事故を学ぶ「海に沈んだ炭鉱・フィールドワーク」が27日、炭鉱跡近くの西光寺であり親子ら約20人が参加した。

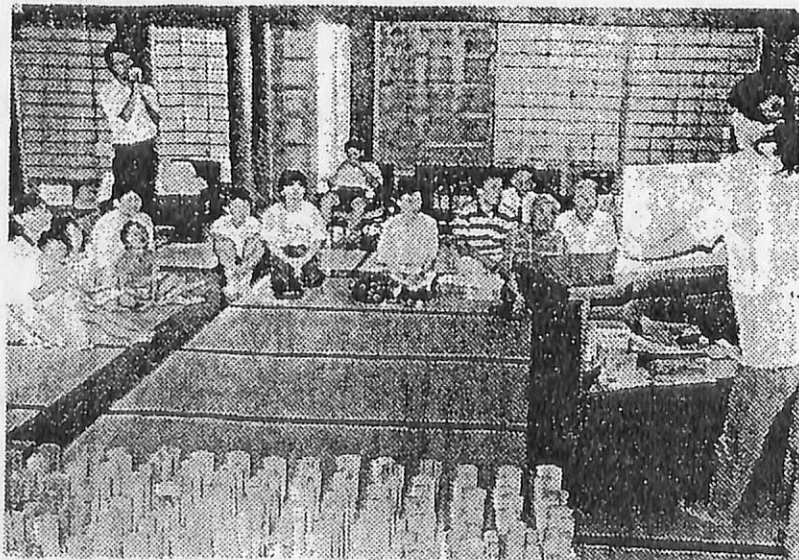
事故は1942年2月3日に発生、海底坑道が水没し183人が犠牲になった。うち136人は朝鮮半島から強制連行されてきた人たちとされ、遺体はいまも海底に眠ったままになっている。

市民グループ「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」(山口武信会長)が、悲劇を子どもたちにも知ってもらおうと犠牲者の位はいがある西光寺で4年前から夏休みに開いている。

本堂で、位はいに向かつて全員が黙とう。子どもたちは、会員による事故を題材にした手づくり紙芝居「アボジ(お父さん)は海の底」を見た後、島敵史山口大工学部名誉教授から宇部地方の炭鉱の歴史について話を聞き、事故や強制連行について学んだ。

また、ピーヤ(排気筒)が残る炭鉱跡の海岸へも行き、花束を供えて犠牲者のめい福を祈った。

【牧野 彦】



犠牲者の位はいの前で開かれたフィールドワーク

各新聞社が取り上げてくれました。
また、TVのニュースでも報道されました。

胸に突き刺さる悲しみ...



犠牲者のめい福を祈って花をささげる参加者(西岐波の長生海岸で)

長生炭坑フィールドワーク

児童らが「水非常」学ぶ

炭坑跡では追悼の花束

長生炭坑の「水非常」を後世に伝える「海に沈んだ炭坑」フィールドワークが二十七日、西岐波向坂の西光寺で、小学生ら二十人が、事故当時の様子も朝鮮人労働者の劣悪な労働条件について学んだ。ピーヤ(排気筒)が残る炭坑跡では、荒れた海に向かって追悼の花束をささげた。水非常を歴史に刻む会(山口武信会長)主催。

水非常とは、炭坑用軌道で水没事故のこと。長生海岸沖にあった長生炭坑では、一九四二年三月三日に事故が発生。少なくとも百三十五人の朝鮮人を含む百八十三人が亡くなったと言われている。現在、地上部分の施設はすべて壊され、海中から突き出ているピーヤ二本だけが、当時をしのばせている。

同会はピーヤの保存、犠

牲者全員の名前を刻んだ慰霊碑の建設、事故当時の証言集の作製を目的に、九一年に結成。フィールドワークは、同炭坑における朝鮮人の強制連行や強制労働の実態を、次代に伝える子供たちに知ってもらおうと、四年前から開いている。

西光寺では、会員の山内弘恵さん(三〇)「防府市」が自作の紙芝居「アボジ(お父さん)は海の底を披露。山口会長と、世話人の島敵史さんが宇部の炭田史や事故の概要を説明した。参加者は同寺に安置されている位はいに黙とうをささげ、犠牲者のめい福を祈った。

長生海岸では、台風の影響で白く波立つ沖合に、ユリの花を流した。東岐波小一年の木下夢(むつ)君は、姉の藍(あかり)さん(同小三年)と参加。「悲しい話で、胸にすいはりが刺さったみたいになっちゃった」と、学んだことをかみしめていた。

「刻む会」11・3 宇部まつりに出店!!

追悼碑建立及び活動資金を稼ぐため、また、「刻む会」の活動をアピールするため、今回初めての試みとして、「宇部まつり」に出店することになりました。何分、始めてなので、どうなることやわかりません!! でも、スタッフはやる気いっぱいです。

当日、少しの時間でも店番を手伝って下さる方、ご連絡下さい。
(当日テントにこられても構いません!!)

また、それと平行して、本場韓国直輸入のキムチを注文販売します。同封の注文用紙に記入して、事務局までお送り下さい。FAXでも構いません。

尚、これらの収益は、追悼碑建立資金及び活動費にさせていただきます。

「刻む会」の活動資金カンパのお願い

日頃より刻む会の活動をご理解頂き、変わらぬご支援を賜っていることに心からお礼を申し上げます。

今年も残すところ二ヶ月余、年が変わりますとまた「水非常」が発生した悲しみの記念日がやってきます。今回も韓国からご遺族を迎えて追悼式を予定しておりますが、その間にも「夏のフィールドワーク」を開催し、運動になお一層の広い理解を求めるとともに、子供たちがわが街「宇部の負の歴史を学び、将来正しいアジア諸国との友好を考えることができる」と願っています。また刻む会の三つの目的のうち「のひとつである「追悼碑の建立」を具体的に進めるために、とりあえず土地の取得の件について宇都市役所と語り合ったり、この種の運動の先輩である飯塚市を訪ねたり努力を重ねています。

わが国が、ガイドライン周辺事態法、日の丸・君が代にはじまる一連の法律を国会で通し、平和国家から戦争国家へ大きく曲がろうとしているいま、私たちの運動も正念場にあることを思い、一層盛り上げて行かなければならないと思っております。経済的にも大変厳しい昨今ですが、刻む会活動資金のためにカンパをお願い申し上げます。